

事例4

ふじのくに健康長寿プロジェクト推進事業

エリア(静岡県)



事例選定のポイント

事業場の健康課題を明確化

県からアドバイザーを派遣することにより、専門的な視点から事業場の健康課題を明確にしている。

小規模事業場が取り組みやすい環境づくり

表彰制度によるインセンティブの付与や好事例集を通じた健康づくりのノウハウ共有し、小規模事業場でも取組しやすい環境を整備している。

大学院大学との連携

県立の社会健康医学に関する大学院大学での研究成果を具体的な施策に繋げることで社会へ還元。産官学連携で事業を推進している。

基本情報

実施主体者	静岡県	対象者	働く世代
関係機関	全国健康保険協会(以下、協会けんぽ)静岡支部、健康保険組合連合会静岡連合会、事業場、静岡社会健康医学大学院大学	実施期間	平成29年度～

健康課題

- ・ 静岡県の健康寿命は令和元年に男女とも5位と全国でもトップクラスである。県の健康寿命と平均寿命はいずれも年々伸びているが、依然両者間の差はあり、健康寿命延伸が課題。
- ・ 全国と比較した標準化死亡比を見ると、脳内出血、脳血管疾患が多い。
- ・ 塩分の摂取量が他県より多く、野菜摂取量が少ない。

事業目的

- ・ 県内市町の健康課題をマッピングし、市町における健康課題の把握を支援する。
- ・ 地域全体の健康づくりに健康経営の視点を取り入れ、健康づくりに積極的に取り組む県内の事業者を増やす。

事業実施の経緯

健康経営の視点を取り入れた計画を展開	平成29年度から「静岡県で暮らす・働く・育つと元気になれる～働いてよし、住んでよし～」をコンセプトに、「健康経営」の視点を取り入れ、地域・事業場・家庭における健康づくりを推進する「しずおかまるごと健康経営プロジェクト」を3カ年計画で展開。
事業の再構築	「しずおかまるごと健康経営プロジェクト」は終了し、令和2年度から「ふじのくに健康長寿プロジェクト」として、「健康長寿の研究」「重症化予防対策」「事業者との連携」「健康マイレージ事業」を4つの柱として掲げて取り組んでいる。
事業者との連携	令和2年度からは「ふじのくに健康長寿プロジェクト」の1つの柱として、特に「事業者との連携」を掲げ、 <u>表彰制度</u> や <u>事業所宣言</u> 、 <u>アドバイザー派遣</u> を通じて地域と職域の連携を強めている。

取組内容

静岡県では、各事業場の取組状況を確認しながら事業を進められるよう、実施状況や課題を聞き取り、展開事業者との連携を進めている。

■ 健康づくり優良企業の表彰

従業員等の健康増進に関する優れた活動や今後の取組に期待できる事業場等を健康づくりの優良企業として表彰する制度を設けた。表彰された事業場は、知事褒賞授与の他、事業場の取組を事例集にまとめて周知している。

■ 「ふじのくに健康づくり事業所宣言」事業

事業者が、従業員の健康管理や維持・増進のための具体的な取組目標を宣言し、県から認定証を発行。宣言内容は静岡県公式HPに公表している。宣言した内容を中心に各事業場で健康づくりに取り組んだのち、年度末に取組実績や取組結果を記載した実績報告書を提出する。また2年ごとの認定証更新の時期に合わせて、宣言内容を見直し、申込書を再提出する。協会けんぽ静岡支部の協力も得て事業を推進している。

■ 「ふじのくに健康づくりアドバイザー派遣」事業

「ふじのくに健康づくり事業所宣言」を行った事業者を対象に、生活習慣病、喫煙、栄養、運動、歯科各分野のアドバイザー（県の保健師、栄養士、外部の健康運動指導士等）を無償で派遣する制度を設けた。希望に応じてアドバイザーを派遣して、各分野のセミナーや個別相談を実施している。

■ 血圧測定習慣化促進事業

県の健康課題を踏まえ、県内事業場従業員を対象に血圧測定をする環境整備（血圧計貸与）、血圧測定の動機付け支援、継続的なフォローアップを通じて、家庭における血圧測定習慣化を目指す。

取組の成果・効果

健康づくりの優良企業として令和4年度までに81の事業場が受賞。「ふじのくに健康づくり事業所宣言」事業は、協会けんぽ静岡支部の協力を受け、令和4年11月現在、6,750事業場が宣言事業所になっている。静岡部品株式会社は平成27年9月に「ふじのくに健康づくり事業所」を宣言。以降、健康に関する取組を計画立てて行い、その結果、4年間で傷病人数が56%、傷病日数が81%減少し、休職人数も0人になる等、大きな効果が出ている。また、健康に関する取組が採用活動にもよい影響を与えている。

ここポイント



取組の成果・効果につながった要因や工夫した点

- ☑ 「血圧測定習慣化促進事業」では保健師による2ヶ月間のフォローアップや実証事業の効果検証を目的とした全3回のアンケート、事業場の健康づくり担当者へのフォローアップ等を実施している。
- ☑ 「社会健康医学」研究の推進と研究成果を還元する人材を養成するため、令和3年に「静岡社会健康医学大学院大学」を開学。大学院大学による最先端研究を事業に反映し、解決策を策定することで、質の高い政策を社会に波及させて健康寿命延伸を図る。
- ☑ 各種事業において大学院大学や協会けんぽ、健康保険組合等との会議を通して、県や事業者の取組に関係者から助言をいただいている。
- ☑ 各事業場の取組状況を確認しながら事業を進められるよう、県の担当者が事業場へ訪問し、実施状況や課題を聞き取り、展開している。

今後の方向性

- 事業者と県が協同で企画、実施する伴走型事業者連携から、**事業者主導で進める取組に県が相乗りする自走型の事業者連携を目指す**。そのために事業者の実情を捉えられるよう、事業場訪問を強化する。
- 家庭での血圧測定を進めるために、血圧計の選び方や測定方法、基準値等まとめたチラシも作成し、県内市町で有所見時の受診勧奨に活用。
- 健康寿命の延伸のため、生活習慣の改善とともに、健康資源へのアクセス改善といった社会環境の改善に、県内事業者の協力のもと、取組を推進していく必要がある。

Good Point

本事例の評価ポイント

企業が主導で健康づくりと企業連携を進められるよう、**生活習慣を振り返るチェックシートや目標設定・評価シートの配布等の環境整備や血圧測定の動機付け支援**を実施することで、働く世代の健康づくりへの意識向上を行っている。